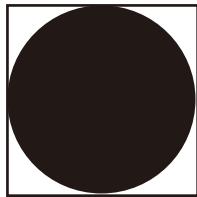


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 160

2020. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 北川智久・佐藤仁美

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

リアル「3密」での体験的美術教育研究

公益社団法人 日本美術教育連合理事 山口喜雄

コロナ禍で密閉・密集・密接の「3密」回避の時代になった。20世紀リアル「3密」育ちの筆者の体験的美術教育研究をふりかえり、回避の時代における機縁にできたと記述する。

高1美術の初授業で、『美術のみかた』を引用した学びに感じ入った。6年後の学部3年時、著者の井手則雄展を1972年の月刊『美術手帳』で見つけ銀座で彫刻家本人との面談が叶った。美術観や表現力が教育に深く関係すると理解できた。そこで出会った学生から夏の芸術学校（多田新作校長）での3泊無給助手を紹介され2ヶ年参加した。自然の中で芸術を通した学びを造形活動だけでなく、主体的に生活する充実と意義を体感した。同年、手塚治虫氏講演開催の造形教育センター（真鍋一男委員長）月例会に誘われ間近で拝聴、漫画は美術教育に好適と納得した。真鍋先生の導きで彫刻家の佐藤忠良展を訪ね握手、彫刻家の掌の触感を今でも覚えている。後に絵画研究所主催の佐藤氏講演を聴く機会があり、美術教科書研究の始原になった。教育実習校指導教官の勧めを受け、三浦半島にて1泊2日の造形教育をもりあげる会（小関利雄会長）にも参加、新川昭一教科調査官のユーモアたっぷりの話術に引き込まれた。授業実践報告が興味深く、明け方まで唄い語り飲む会も楽しかった。

同会で教職2年目の1975年から4年連続で実践報告の機会を得た。諸先輩の鋭い質問や硬論が快く、後の初共著執筆に繋がった。研究熱心な先輩から新しい絵の会箱根全国大会を知らされた。1965年INSEAの倉田三郎元会長の講演を超密の中で聴き、おおらかな人間性に傾倒した。その宿泊ホテルでの夕食時、許可を得て隣席にて箕田源次郎氏と談笑でき明晰な人柄にふれた。約30年後『熊本文庫総目録』編集時に、熊本高工氏から箕田氏は親友であるとい奇縁を感じた。1990年11月青山でのフランク・チゼック記念シンポジウムにて、溢れる参加者を前に81歳の久保貞次郎氏がマイクを使わずに語る迫力に敬服した。10日後、神戸三宮で「美術教育を語るW・E（東西）のつどい」に宮脇理・花篤実両教授がよびかけ70余名が熱く語り合い、以後の研究を支える友人多数と出会えた。1998年InSEAアジア地区会議東京大会で野々目桂三氏に二人写真撮影をお願いした。8年後に科学研究費を得て、野々目氏を招聘して公開研究報告会。多くの方々のお陰で美術教育研究を進展できた。

コロナ禍にあっても、21世紀には前世紀には存在もしくは普及していなかったComputer、PowerPoint、Internet、Onlineがあり、自宅にて10月11日の《日本美術教育研究大会2020》に参加して、諸氏の研究にふれられる。

第54回 日本美術教育研究発表会2020 案内

1. 日 時 2020（令和2）年10月11日（日）9：00～16：40
2. 会 場 オンライン zoom 各設定Room内
3. 参加費等 参加費500円（概要集代として）会員以外の方でも参加できます。
事前申込みが必要です。連合HPからご案内します。参加者には、『日本美術教育研究発表会 概要集2020』をオンラインで配布します。
4. 主 催 公益社団法人 日本美術教育連合

第54回日本美術教育研究発表会2020 最終案内

2020. 9.10

- 開催日時： 2020（令和2）年10月11日（日）9時～16時40分（予備室の未使用の場合－終了予定16時）
- 会場： オンライン zoom 各設定Room内
- 参加費等： 参加費500円（概要集代として）事前申込みは必要、会員以外の方でも参加できます。
『日本美術教育研究発表会 概要集2020』をオンラインで配布します。
- 主催： 公益社団法人 日本美術教育連合

発表者の皆様へ

事前のテストroom開設

- 事前の試験実施：2020（令和2）年10月4日（日）午前10時～11時

各room設定者（研究局 A－林・B－小林・C－藤井・D－結城・E－山田）が設定したroomにて発表者の各10分以内

- ◆音声テスト・プレゼンテーションテスト・通信量確認・カメラテストの実施
- ◆配布資料があれば 配布テスト
- ◆もし、日程が合わない場合は、発表者の別途対応
- ◆発表者には、設定者からメールにてaccessコードの連絡を差し上げます。
- ◆当日、発表中にアクシデントが起きましたら、予備室を用意しておりますので、再発表が可能です。
主催者側と協議の上、スケジュールを決定します。
- ◆当日、投稿論文（12：20－12：50）についての説明会があります。必ず、ご参加ください。

参加者・発表者の皆様へ

- ◆研究発表会 参加予約

9月10日からこくちへにて 予約開始 先着順200名 オンライン決済 参加費 500円 領収書有
予約の際に 参加者・発表者皆様には、下記の信義則実行の内容を確認していただき、ご了承の上、ご参加ください。

セキュリティの確保

- アクセス情報を他者に知らせないこと。
- 発表者の発表データを無断流出しないこと。
- 参加者の肖像を無断で流出させないこと。

参加者の信義則実行の原則

- Accessコードを他者に知らせない。
- 研究発表の発表資料を無断で画面から記録しない（発表者が許可する場合はこの限りではない）。
- 参加者の肖像を記録しない。
- 発表進行への協力

発表者の著作権・肖像権の順守

- 発表者は、著作権を順守し、肖像権を尊重した発表を実施すること。
 - そのために使用する画像、データ等、著作権・肖像権に抵触しないことを必ず事前に確認すること。
- 参加に際しては、これを承認されたものいたします。

- 参加者の皆様には、当日までにメールにて、各部屋のaccessコードをお知らせします。
- 開会式はDルームにて9：00より開会しますので、ご参加ください。
- 発表に際して、各部屋に入室されましたら、チャットにお名前、所属、一言をお書きください。
- 発表中のチャットによるご質問は、随時受け付けます。ご記入ください。
- 各会場では、ミュート無カメラの設定をしております。
- 予備室を使用しない場合、閉会終了が繰り上がります。（15：45閉会式 終了16：00）

以上

第 54 回日本美術教育研究発表会 2020 発表スケジュール 2020(令和 2)年 10 月 11 日(日)

会場:ZOOM 会議上 主催 公益社団法人 日本美術教育連合

9:00 9:15 9:30	開会式 D 会場				
	会場A (理論等) 林	会場B(実践小) 小林	会場C(実践中高) 藤井	会場D(特支/幼) 結城	会場E(海外/ICT) 山田
9:30 9:55	A-1 芸術実践を契機とするコミュニケーション的行為の様相 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 清家 颯	B-1 図画工作科の木版製作における彫刻刀の安全指導についての考察 八王子市立 宇津木台小学校 戸室 鉄平	C-1	D-1 ワークショップを通じた親の関わりについての考察 -親子ワークショップにおける親を対象とした質問紙調査から- 高崎商科大学短期大学部 前沢 知子	E-1 レゾ・エミリア教育を社会的な ART として考察する 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 森井 圭
10:10 10:35	A-2 主要視覚教育メディアとしての教育掛図 -戦前期日本教育掛図の基礎研究序説- 東京都立大学 長田 謙一	B-2 性的マイノリティについて知るための図画工作科の授業実践とその成果折り紙文化の芸術として 群馬大学共同教育学部 附属小学校 大塚裕貴 足利短期大学 茂木克浩	C-2 表現教科としての役割を大事にした、小中学生対象リモート授業実践報告 学校法人 聖ステパノ学園 小学校/中学校 金阿彌 勉	D-2 幼児が粘土に触れ合う手の使い方から手でつくろへことへの意味連関を考察する 鶴見大学短期大学部 鮫島 良一	E-2 「居場所」の造形活動をめぐる自他の境界について- a/r/tography を用いた日本・チェコ共和国間の交流授業を通して- 兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 家崎 萌
10:35 10:55	休憩 (20 分)				
10:55 11:20	A-3 西野範夫による「造形遊び」の提唱を支えた思想的基盤について 東海大学短期大学部 佐藤絵里子	B-3 造形教育におけるオンライン授業の問題点と解決の方向性について -異年齢によるリアルタイム方式のオンライン実践をとおして- 登米市立北方小学校 宮崎 敏明	C-3 ふるさと熊本アートプロジェクト 2019「星あかり セタ夢美術館 Beyond The Southern Cross」復興支援・国際交流を通じた授業開発と実践 -地域社会を拓く経験的なイメージと対話的な学修の可能性を探る- 熊本大学 赤木 恭子	D-3 発達障がいがある幼児の積み木遊びについて 群馬大学 大学院 教育学研究科 石原加奈子	E-3 美術科教育の視座から検討する STEAM 教育の趨勢 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 畑山 未央
11:35 12:00	A-4 戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(21) -1956~2021 年度美術科教科書掲載の美術史年表における海外美術作品に関する考察- 元 宇都宮大学 山口 喜雄	B-4 図画工作科における創造活動を通じた「造形的な視点」の研究Ⅳ -人間らしい学習のあり方について- 東京学芸大学 西村 德行	C-4 芸術は可能か? 再考 -今日における「美術教育」「感性の生み出し方」の実践から- 奈良市立一条高等学校 佐藤 隼	D-4 木育実践共同体の構築-大学教員と付属幼稚園教員の協働に基づいて- 東洋英和女学院大学 三上 慧	E-4 アートによる当事者研究の試み:《アイムヒア プロジェクト 渡辺篤》が開く可能性 東京学芸大学大学院連合 学校教育学研究科 細野 泰久
12:00 12:30	論文投稿者説明会 12:20-12:50	昼食 (12:00-13:30)			
13:30 14:55	A-5 折り紙文化の芸術としての発展 -吉澤章が現代折り紙に与えた影響- 東洋大学大学院 文学研究科 松浦 英子	B-5 情動が媒介となる造形遊びの事例研究Ⅱ 東京学芸大学附属 小金井小学校 守屋 建	C-5 中学校美術科と国語科等の教科融合型学習の研究(4):2 年生におけるパフォーマンス課題『津久見“美”事典』の取り組み 大分大学 藤井 康子・花坂 歩 臼杵市立志生小学校 永松 芳恵 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 畑山 未央	D-5 美術表現における遊び的アプローチの考察 -遊戯論を踏まえて- 筑波大学大学院人間総合 科学研究科 佐藤 仁美	E-5 松原郁二の「A-R 型創造」理論と発想・構想論 東京学芸大学 山田 一美
15:10 15:35	A-6 造形教育の今日的意義 東京学芸大学附属 竹早中学校 杉坂 洋嗣	B-6 予備室	C-6 予備室	D-6 知的障害児の描画の発達を促す指導について 埼玉県立春日部 特別支援学校 小野 恵	E-6 美術科教育課程における核心概念:TETAC 及び韓国の教育課程におけるビク・アイディア概念を中心に 韓国 春川教育大学 柳 芝英
15:50 16:15	A-7 予備室	B-7 予備室	C-7 予備室	D-7 予備室	E-7 予備室
16:20	閉会式 16:35 閉会 (D-room) 予備室未使用の場合:15:45-16:00 発表:15分-1 鈴・20分-2 鈴(発表終了)・25分-3 鈴(質疑応答 終了)				

第54号 日本美術教育研究論集 2021

【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

□投稿ならびに 掲載の条件：

第54回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『日本美術教育研究論集54』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(7)の条件を全て満たしたものに限り、掲載します。

- (1) 投稿原稿の題目ならびに内容が、研究発表会における発表内容と同じであること。
- (2) 投稿原稿の内容が、未発表かつオリジナルなものであること。
- (3) 投稿原稿の内容が、投稿された各群の内容として適合していること。
Ⅰ群(理論・実践研究論文)…理論的・実践的な実証に基づいた独創的な知見を含む論文。
Ⅱ群(実践研究報告等)…さまざまな教育現場におけるすぐれた実践を報告するもの。
Ⅲ群(研究ノート)…将来の研究につながる問題の提起ならびに先行研究や事例の紹介。
- (4) 投稿原稿において、規定の書式、分量等が守られていること。
- (5) 掲載料を期日(2020年11月4日)までに納入していること。
- (6) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
- (7) 研究論集編集委員会における査読を経て、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- (8) 昨年度第53号論文投稿の有資格者で未投稿並びに取り下げされた方も投稿可能です。

□論文査読：

Ⅰ群(理論・実践研究論文)・Ⅱ群(実践研究報告等)・Ⅲ群(研究ノート)ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。

□原稿書式：

Ⅰ群・Ⅱ群・Ⅲ群ともに、本文および図版(写真・表・図等)及び「英文サマリー(Ⅰ群)」を含め、下記の書式と文字数を守って下さい。
1頁分は、A4横組2段 23字×44行×2段=2024字です。
題目(副題)、所属、氏名は、第1頁の1行目から2段取りで記載し、本文は10行目から書き始めます。なお、題目の英語表記ならびに所属、氏名のローマ字表記もこれに含めます。共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
大項目1. 2. 3. [全角数字]…、中項目(1)(2)(3)…、小項目①②③…。

□掲載料：

Ⅰ群・Ⅱ群・Ⅲ群ともに掲載料は、一般(給与を得ている内地留学生等を含む)15,000円、院生・学生8,000円です。
8頁(Ⅲ群のみ6頁も可)を原則とし2頁増ごとに6,000円を加算し(奇数頁の場合も余白頁を含めて2頁増として計算)、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
抜き刷り(一律50部)は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。(抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。)
掲載料は下記口座に納入し、送金証明書(利用明細書のコピー等)を投稿論文に同封して下さい。

口座記号番号：00170-1-86036(右寄せで記入)郵便振込です。

加入者名：公益社団法人日本美術教育連合

ご依頼人：(〒)おところ・おなまえ・電話番号・所属

通信欄：例 掲載料15,000円(一般、8頁)＋増頁分6,000円(2頁増の場合)＝21,000円(計10頁)

抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。

※査読の結果、掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内5,000円(院生・学生3,000円)を引いた金額が返金となります。

〈投稿原稿〉11/4(水)必着

□投稿〆切：

2020(令和2)年11月4日(水)必着。Ⅰ群・Ⅱ群・Ⅲ群ともに次の①～③を提出してください。

①原稿(正1部と副3部、計4部)、②投稿エントリーシート、

③送金証明書(エントリーシートに貼付)

投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。

ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。

なお、発行日は2021(令和3)年3月31日を予定しています。

□送付先：

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛

□詳細連絡：

研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。

□問合せ先：

研究論集編集委員会 論集編集委員長 立川泰史：042-782-9811(代)

tachikawa@kasei-gakuin.ac.jp(東京家政学院大学)

公益社団法人日本美術教育連合主催 造形・美術教育力養成講座 第6期のお知らせ 「越境し、拡張する美術－美術／美術教育へのアクセシビリティを再考する」

全ての人々が「不自由さ」を共有している今、美術教育やアートへのアクセスに関する問題がテーマです。

1. 参加方法等

- (1) 「こくちーずプロ」を用いた事前申込制です（詳細は日本美術教育連合HP）。
- (2) 対象：連合会員、幼保・小・中・高・大学教員、学生、院生、美術館関係者、画塾経営者、障害者支援関係者及び一般等
- (3) 参加費：1回の講座あたり500円（会員・学生・院生）または1,000円（一般）

2. 講座概要 ※1講座1コマ（90分×1コマ：講義）、Zoomによるテレビ会議です。

- (1) 第1回講座 2020年9月26日（土）13：30～15：00

- ① 「アートへのアクセシビリティ再考－#おうちでポーラ美術館の取り組みから」：ポーラ美術館は直接美術館へ足を運ぶことが困難な状況下で「アート体験を止めない場」として機能し続けています。講座では取り組みの紹介及びコンテンツ開発の背景にある思想についてオンライン配信を担当した同館学芸員にご講話いただきます。

講師：ポーラ美術館学芸員 東海林 洋

- ② 申し込みアドレス 募集期間9月1日（火）9：00～9月24日（木）20：00

<https://www.kokuchpro.com/event/4108cc7e79bf3c2468221f44eecacf56/>

上記にある下記ボタンをクリックすると申し込み頁に移動します。

申込み（外部サイト）



- (2) 第2回講座 2020年11月21日（土）13：30～15：00

- ① 「新しい授業参加を創造するデザイン」：全国の美術教育関係者が取り組んでいるリモート授業やオンライン学習。学習者を主体的に参加させる際に重要となるのが情報伝達のデザインです。今後対面とリモートの混合授業が求められる方向性を想定し、情報をいかに効果的に伝達するかそのノウハウをグループ討議やチャット等も活用し参加者とともに探っていきます。

講師：大同大学 桐山岳寛

- (3) 第3回講座 2021年1月9日（土）13：30～15：00

- ① 「ロボットやWebを用いた新しい鑑賞教育のデザイン」：OriHime

などの分身ロボットを用いた活動を通して、新しい社会参加をデザインするオリイ研究所の鈴木メイザ氏。国立美術館5館共同でデジタル教材を開発した責任者の東京国立近代美術館の一条彰子氏。お二人の対談を通して、新しい鑑賞教育について考えます。

講師：株式会社オリイ研究所 鈴木メイザ、東京国立近代美術館学芸員 一条彰子

- (4) 第4回講座 2021年1月23日（土）13：30～15：00

- ① 内容：「障害があるアーティストの表現の広がり」と自立に向けての可能性」講師は芸術活動にたずさわる障害者の支援ならびに作品の発掘、調査、公開をされています。日本各地を回り、福祉施設、病院、個人宅で埋もれている作品を発掘するとともに、アート作品等の展示会の企画・開催及びアート作品等の商品化ならびに店舗展開等の事業を手掛けています。様々な芸術活動にたずさわる障害のある人及びその芸術作品の魅力そして自立に向けての活動、ネットワーク化の促進についてお話をお聞かせします。

講師：Art InterMix代表 画家 中津川浩章

2020/09/26 (土)
13:30 - 15:00 JST
📅 カレンダーに追加

会場 オンライン

チケット	
会員（学生・大学院生・一般）	¥500
非会員（学生・大学院生）	¥500
非会員（一般）	¥1,000

販売期間: 2020/09/24 20:00:00
※コンビニ / ATM でのお支払いは、2020/09/23 で締め切られます。

チケットを申し込む

🔔 未読・販売終了前に通知

InSEA「刊行物」を通した、多様な芸術教育との出会い

国際局担当理事 西 村 徳 行

InSEA2019世界会議バンクーバー大会が、カナダのブリティッシュコロンビア大学で開催されてから一年が経つ。新型コロナウイルスの感染拡大によって、人との交流をはじめ、様々な活動が制限される現状は、一年前には想像もできなかったことである。様々な国からの参加者と交流した日々が、懐かしく思える。世界会議に参加して感じたことは、そこで語られる芸術教育の幅広い有り様である。美術教育を「教科教育」としてとらえる範疇から比べると、その広がりには際限のないものに思え、これからの様々な可能性が感じられた。世界会議や地区大会は来年以降も計画されているが、現状ではその開催もなかなか難しい状況にある。そこで今回は「出版物」を通した、多様な芸術教育との出会いを提案したい。

InSEAのホームページには、刊行物（Publications）の項目がある。8月に送られてきた最新のニュースレターには、カリフォルニア州立大学チコ校教授、徳雅美先生を中心に執筆された『マンガ！：ARTS教育におけるビジュアルポップカルチャー』が紹介されている。またInSEAのグレンクーツ代表が編者の『Learning Through Art:International Perspectives』は、「社会正義とウェルビーイング」、「教育と教育学」、「ビジュアル・リテラシー、対話、アートを通した学習」、「オルタナティブ・アプローチ」の4つのセクションに分け、アートを通した学習の多面的な性質について、選ばれた国際的な著者による多様なエッセイが掲載されている。他にも多数の刊行物があるが、それらはすべてPDFでダウンロードすることができる。InSEA世界評議会（日本からは佐藤真帆先生がInSEAアジア評議員を務めておられる）では、小規模な地元のイベントの促進や新しい美術教育者のInSEAへの参加を促すとともに、会員による出版にも力が入れられており、今後も様々な出版物が刊行される予定である。いまや英語が堪能でなくとも、優秀な無料のオンライン翻訳ソフトが言語の壁を易々と越え、世界で考えたり行われたりしている芸術教育の現状を、即座に知ることができる。コロナ禍で閉塞的な状況にある今だからこそ、これらInSEAの「刊行物」を通して、多様な芸術教育の現在にふれてみてはいかがだろうか。

○InSEAホームページ

<https://www.insea.org>

○InSEA刊行物ウェブページ

<https://www.insea.org/our-publications>

○International Journal of Education through Art [IJETA]ウェブページ

<https://www.intellectbooks.com/international-journal-of-education-through-art>

《 総会記念リレー美術教育講演会2020 》の記録

当初5月10日(日)東洋大学スカイホール開催予定の《 総会記念リレー美術教育講演会2020 》は、新型コロナウイルス感染拡大により8月23日(日)ZOOM上に変更して実施しました。募集定員100名に北海道から鹿児島までの24都道府県、会員42名を含む100名の応募があり、「バウハウスと日本の美術教育」と題し約3時間の講演・討議が行われました。ここには企画趣旨、スピーカー7氏の写真、発表申込者の内訳、運営分担等を示し、講演等の詳細は今年度中に別途報告いたします。



「録音・録画・撮影等を行わない誓約」をお守りください

2020
8/23

公益社団法人日本美術教育連合主催 総会記念リレー講演会2020

バウハウスと日本の美術教育 —「構成」・「造形」教育の系譜と現在—

□第1部 バウハウスの教育再考

講師：長田謙一（首都大学東京客員教授）
指定討論者：小林貴史（東京造形大学教授）

□第2部 日本の「構成」・「造形」教育再考

講師：藤原智也（愛知県立大学准教授）
指定討論者：茂木一司（群馬大学教授）

□第3部 討議

司会：コーディネーター：長田謙一
上記全登壇者・総司会：山口喜雄

□運営：美術教育連携交流委員会

山口喜雄（元宇都宮大学教授）
長田謙一（首都大学東京客員教授）
橋本光明（すみだ北斎美術館館長）

バウハウス100と日本の美術教育

- 1919年、ワイマールに誕生したバウハウスは、社会における造形諸領域と建築の新しい在り方を求め、その実現のために必須の営みとして造形教育の革新に実験的に立ち向かった。印刷物や訪問報告等を通して始まったバウハウスの日本への影響は、水谷武彦、山脇巖、道子等がバウハウス留学を終えて帰国することで本格化した。バウハウス教育は川喜田煉七郎らによって新しいデザイン教養教育の場に受け継がれ、一方で専門教育の転換に連動し、他方ではさらに武井勝雄らを加えて普通教育としての「構成教育大系」へと定式化され、また間所はるらの教育実践のなかで一段と展開されてもいった。戦後、1954年のグロピウス来日を契機に、普通教育の中の美術教育の中にデザイン教育を新たに位置づけるだけでなく美術教育の全体を造形教育としてとらえ返し組み替える 思想・実践・運動も生み出された。21世紀日本の美術教育は、その造形教育をも踏まえ大きく包含したうえで、21世紀のさらに更新された社会システムの中で現に展開している。本リレー講演は、この現代日本の美術教育の視点から、バウハウス100年を検証する場として、また同時にバウハウスという光源から日本の美術教育の現代を照らし返す場として企画される。



〔顔写真〕上から結城孝雄*
長田謙一*、小林貴史*
藤原智也*、茂木一司
橋本光明、山口喜雄*
(*：背景はバウハウス現地での長田謙一撮影による)

参加申込100名の内訳				
所在都道府県			会員・校種等	
北海道	1	長野	3	会員 42
秋田	2	石川	2	非会員 58
福島	1	愛知	1	小学校 14
新潟	1	三重	1	中学校 9
群馬	4	滋賀	1	高校 7
栃木	1	大阪	2	短大 6
茨城	5	兵庫	2	大学 35
埼玉	2	岡山	1	行政 0
千葉	6	山口	1	美術館 7
東京	36	高知	1	出版社 1
神奈川	18	大分	1	一般 6
静岡	6	鹿児島	1	学生 15

□運営

企画
広報
フライヤー
こくち一ず
著作権対応
ZOOM

(講師・役員名・敬称略)

長田謙一・橋本光明・山口喜雄
大坪圭輔・北川智久・三澤一実ほか
茂木一司・長田謙一
北川智久・山口喜雄
奥村高明・大坪圭輔・長田謙一
結城孝雄

開会の辞	結城孝雄	13:43~13:48
企画趣旨	長田謙一	13:50~14:05
第1部講演	長田謙一	14:06~14:40
指定討論者	小林貴史	14:41~15:07
第2部講演	藤原智也	15:08~15:49
指定討論者	茂木一司	15:50~16:10
第3部討議	長田謙一	16:11~16:40
謝辞	橋本光明	16:41~16:47
総司会閉会	山口喜雄	16:48~16:50

会計 西村徳行・畑山未央
写真画像記録 結城孝雄・畑山未央・山口喜雄
本報告編集 山口喜雄

事務局便り

■会員の異動について

〈入会者〉石原加奈子氏・川合沙弥香氏・清家颯氏・竹田祉薫氏・松浦英子氏・吉田奈穂子氏

上記6名の方が8月23日開催の理事会にて承認されました。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、すでに入会申込みをいただきながらここでご紹介できなかった方々は、10月の理事会において正式に会員として承認される予定です。研究発表会にエントリーされている方もご心配にはおよびませんので、予めご承知おきください。

■「第54回日本美術教育研究発表会2020」が開催されます！

来る10月11日（日）に、第54回日本美術教育研究発表会2020を開催いたします。コロナ禍のたいへん厳しい中ではありますが、研究の火を消してはいけないということで、オンライン（ZOOM）による開催とさせていただきました。

突然の休講や出張制限など、会員みなさまにおかれましては、研究を進める上で多くの困難があったことと思います。しかし、それでも27件ものエントリーをいただきました。そしてその内容をご覧いただければお分かりのように、児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・科学的な精査から組み立てられた研究まで、多彩な発表が期待されます。会員みなさまにおかれましては、ぜひ会員外の方も誘いいただき、会を盛り上げていただければ幸いです。

■会費納入のお願い

令和2年度(2020年度)会費 6,000円 を納入してください。

※振り込み先：

【郵便振替】（公社）日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの振込先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

※会計年度は、令和2（2020）年4月1日～令和3（2021）年3月31日となります。期限が過ぎていますので、お早めの納入をお願い申し上げます。

■お問い合わせ先：公益社団法人 日本美術教育連合 事務局

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科第8研究室内

公益社団法人日本美術教育連合事務局 北澤俊之

TEL：03-3945-8568（研究室直通）

E-mail：kitazawa@toyo.jp